

図書室

今月のお知らせ

社会教育センター図書室

☎28・5449

新刊

児童書

空港のたんけん

(小学生向け)

福手 勤 監修 (星の環会)

土木とはなにか、土木構造物にはどんなものがあるのかを、ドボジョマヤドボジュニアたちといっしょに学べる本。空港を取り上げ、イラストとともに解説する。防災対策なども紹介。



一般書

美術の経済

小川 敦生 著 (インプレス)

落書きのような「作品」がなぜ何億円もするのか?贋作とわかったら価値が変わるのはなぜか?ダ・ヴィンチの報酬は?元経済紙記者の美大教授が、お金とアートの切っても切り離せない関係を明かす。



一般書

働くセーター

保里 尚美 著 (文化学園文化出版局)

着る人の日々に寄り添い、体の一部になる「働くセーター」。動きやすさを重視し、さまざまな工夫をこらしたセーター、カーディガン、ベストの編み方を、プロセス写真や5サイズの製図とともに紹介する。



一般書

水墨で描くやさしいはがき絵

塩澤 玉聖 著 (日貿出版社)

水墨画の基本を丁寧に解説して好評の著者が、彩り豊かな四季の草花と日本の風物、年賀状のお手本として最適な十二支を、簡潔な筆法で描き上げた「はがき絵」の手本集。基本描法も写真で詳しく解説する。



豊山俳句クラブ 青山克己 選

一代で閉ぢる居酒屋すがれ虫

岡島 齋

路地の奥風に色増す唐辛子

青山とも子

山並みの雲低くして冬に入る

水野眞弓

見上げればただ一面の鰯雲

黒澤裕子

晩秋や一つ手前でハス降る

高木須磨子

玄関にどすんと置きし今年米

山下敬太

秋土用夕日は波を渡りけり

田村多喜子

いつまでも残る刈田の轍かな

坪井昭子

秋深し心の迷路ほぐれゆく

谷崎 琴

車椅子ふり向く笑顔秋桜

東海林宗義

廢線に沿ひて炎のごと曇珠沙華

杉浦みどり

亡父に似た声に振り向く秋彼岸

坪井径子

産土や風に壊れてゆく花野

青山克己

豊山歌壇 水野笑子 選

秋風を前かごに乗せてゆつくりと公園に向かふも我の日課と

小出寿枝

老乱遠の眼鏡は曇り如何にせんマスク疎ましコロナ禍続く

中澤芳子

孫子来て賑やかなれる盆行事今年は淋しく提灯点す

荒川昌枝

名城の公園館に花活けて夫と風車を眺めし遠き日

柴田満枝

孫の顔見る機会なくスマホのみに自粛に盆は過ぎてゆくなり

橋爪しづ子

陽を浴びて輝き流れるし小川今も光りぬ吾が想ひ出に

一柳千鶴子

ただ一度の出会いなれども忘れ得ず若き従兄弟ら戦に死せり

巻雲の秋空思ひて見上げれば積雲の峰夕陽に染まる

山田 米

つつじの木役場をかこむ石垣を今年の夏は超せず萎れて

ざらざらと陽の射す川底細くなり繁る睡蓮揺らして流る

渡辺トヨ子

ああ見えぬあの竹むらはわが頭脳しつかり包みて幼なさのまま

水野笑子

編集後記

広報とよやまの表紙を飾った児童館ひまわりのおもしろぬり絵を見てみると個性というものについて考えさせられる。台紙になった元の絵に忠実に色を塗る子もいれば、元の絵とはまるで異なる色を塗る子もいる。ぬり絵に飽きて、途中から友達とおままごとを始める子もいれば、終了時間まで黙々と絵を描いている子もいた▼それぞれに個性があり、ぬり方に何が正しいということはない。誰が優れていて、誰が劣っているということもない。しかし、私たちはしばしばそこに正誤や優劣といった考え方を持ち込んでしまいがちである▼ぬり絵に飽きておままごとを始める子を落ち着きがないと考えるか、行動力があると捉えるかは人それぞれである。また、地域や時代、組織によっても評価は変わってくる。正しいこと・優れていることを判断する基準はとも曖昧なものである。しかし、私たちがいっしょに暮らすには基準やルールが必要になる。ルールがなければ集団行動や社会はなりたない。そのルールはしばしば絶対正しいものと誤解され、個人の個性や生き方と衝突し、圧迫してきた歴史がある▼そこで人類が発明したのが人権という概念で、抑圧的なルールや基準といったものから、個人を守る役割を果たしている。12月10日は世界人権の日である。子どもたちのぬり絵を見ながら、人権について考えていただきたい。